



タイトル	市内で生まれた SF 小説『環の国にて』の寄贈式			
開催日時	5月12日(火)		午後2時	
開催場所	東庁舎4階 教育長室			
内容	<p>郡内織物に使われるシャトルなど、地域の織物文化をモチーフにして本市で生まれた SF 小説『環の国にて』について、市内の中学校・市立図書館などに、出版社 MOKUHON-PRESS 様（韮崎市）より寄贈を受けることとなりましたので、寄贈式を取り行います。</p> <p>出席者 ■ MOKUHON-PRESS、教育長、教育部長、教育次長、学校教育課長、図書館課長、教育研修所長</p> <p>なお、寄贈先の市立図書館で、寄贈を記念した企画展を行う予定です。</p> <p>企画展 ■ 『黒板のなかの星ぼし』</p> <p>期 間 ■ 5月30日(土)～6月28日(日)</p> <p>場 所 ■ 市立図書館エントランスおよびロビー</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>《書籍『環の国にて』》 見開き毎に黒板アートの挿絵が配置されている</p> <p>※姉妹作『トコトコとスペースシャトルの宇宙のハタオリトラベル』も、著者より寄贈予定です</p> <p>作者および出版社について</p> <p>作者（作・絵）の五十嵐哲也氏は、県職員として市内で織物産業振興に携わる傍ら、「黒板当番」のペンネームで黒板アートを発表しており、その一環として『環の国にて』を執筆しました。また出版社 MOKUHON PRESS の代表土屋誠氏は、織物産業のいまを伝えるフリーペーパー『LOOM』（2016年発行）の編集デザインを手がけた折に、発注者である県の担当者だった五十嵐氏と出会い、この『LOOM』の発行はのちに「ハタオリマチフェスティバル」が生まれるきっかけにもなっています。このように『環の国にて』は、本市の織物文化にゆかりのある両氏の手で生み出された作品となっています。</p>			
問合せ	学校教育課	担当者名	安保	連絡先 内線 510

ハタオリマチ
この街で紡がれた、ハタオリが世界をつなぐ物語

環の国にて

Life in the Rings of Saturn

時は二十四世紀、
舞台は土星の環。
レアは世界の秘密を
知る旅に出る。

この宝物が、トコロボさんのもとに
ちゃんと届きますように。

scene36 手紙

ていくレアは、その中で言葉も通じない風変わりな「ども
だち」と出会い、友情を育む。しかしその関係に危機が訪
れ、レアは大切な「シャトル」に願いを託す決断をする。

レアと一緒に
旅に出よう。

あらずじ／土星の環に築かれた「環の国」で暮らすレアの
穏やかな日常は、環の氷に隠された秘密を発見したことで
一変する。やがて人類社会を揺るがす出来事に巻き込まれ

富士山の麓の雄大な自然に隣接し、まるで天
界と人間界の境界にあるかのようなハタオ
リの街を訪れたとき、レアはずっとここに
留まりたいという激しい衝動にかられた
ものだ。

scene40 故郷へ

「地球にある富士山という美しい
山の麓には、いまも織物の街が
あります。これは、そこで長いあ
いだ使われていたシャトルなの。」

scene18 レアのシャトル

環の国にて

Life in the Rings of Saturn



作・監 五十嵐哲也

ある日、いつものように家に帰
る途中、レアは夜を迎えようと
している土星の美しい姿に目を
奪われていた。

scene1 帰路

ハッチが開くと、宇宙服を着た子ど
もたちがミツバチの群れか何かのよ
うに飛び出してきた。

scene19 タイムカプセル

あなたの？この返事を
送ってくれたのは？

scene43 スペースシャトル

「ディオネ、凄いよ。またお宝を発見し
ちゃった。今度はおもちゃのロボット
みたい」

scene21 発掘

レアの旅はやがて
二つの世界を結び、
人類の未来を
切り拓く鍵となる。

黒板に描かれた宇宙を
小説でめぐる
45の旅の風景



著者／五十嵐哲也 a.k.a 黒板当番
編集・デザイン／土屋誠 (BEEK DESIGN)
発行所／MOKUHON PRESS
価格／1,650円(税込み)

scene6 祝いの日

レアが祝いの儀式のあいだも、
花束とともに手にしていたそ
のシャトルは、レアが生まれ
る三百年前に作られたと
いう年代物だ。

MOKUHON PRESS

BOOTLEG



環の国にて

Life in the Rings of Saturn

Q&A

ハタオリマチから発信する、唯一無二のハタオリ黒板SF『環の国にて』。その背景や、黒板アートについて少しだけ深掘りします！

Q. 『環の国にて』はどこで、どうやって生まれたの？

A. 『環の国にて』は黒板アートと共に生まれた物語です。富士山駅ビル Q-STA1階「ヤマナシハタオリトラベル Mill shop」の店頭で黒板アートが一枚完成するたび、それにあわせて一話ずつ物語が書かれていきました。黒板アートは現在残っていませんが、出版社 MOKUHON PRESS（葦崎市）の手で一冊にまとめられ、書籍『環の国にて』が誕生しました。



『環の国にて』を誕生に導いた1枚

2022年のある日、Q-STAの店頭で描かれた黒板アート。はじめは一枚の絵として描かれたものですが、やがて何かに導かれるように物語が紡がれ始め、45枚の黒板アートと1篇の小説からなる書籍『環の国にて』が誕生しました。

Q. 『環の国にて』とハタオリマチの関係は？

A. 主人公レアは、富士山の麓のハタオリ職人の遠い子孫で、そのご先祖の織物のシャトルが三百年後の土星へ受け継がれてレアの手に渡り、物語の重要な鍵となっていきます。また本作は、レアの姿を通してハタオリ職人たちや、この街で挑戦を続ける若者へエールを届けたいという願いから生まれたもので、ハタオリマチとは切っても切れない関係にあります。

Q. 『環の国にて』には姉妹作があるの？

A. 2018年に制作された黒板アート絵本『宇宙のハタオリトラベル』が姉妹作となる作品です。織物のシャトルがなぜかエンケラドスの海底に落ちていたところから始まる物語『宇宙のハタオリトラベル』と、その由来を解き明かす『環の国にて』は相互に補完し合い、二冊でひとつの〈環〉を描くような構成となっています。



『環の国にて』のルーツ的存在？

姉妹作『宇宙のハタオリトラベル』の表紙（左）と、最初に描かれた黒板（右）。『環の国にて』同様、最初は一枚の絵として誕生し、そこからストーリーが生まれました。

Q. 『環の国にて』の作者は？〈黒板当番〉って誰？

A. 作者は「Q-STAの黒板アートを描いてる人」と聞けば、思い当たる地元の方も多いかもしれません。詳しくは下段プロフィールをどうぞ。「黒板当番」の活動はMill shop開店の2014年から始まり、毎月数点の新作を店頭とSNSで発表し続けています。

『トコトコとスペースシャトルの宇宙のハタオリトラベル』

著者/黒板当番
発行/富士吉田織物協同組合
価格/1,000円(税別)
販売/ヤマナシハタオリトラベル Mill shop

最近(2025年末~2026年3月)に描かれた黒板アートより



『湖呼』



『クリスマス・オーナメント』



『レインボー・ミラー・ガール』



『環の中のコテージ』



Mill shopにて/Photo by トリック

作・絵 五十嵐哲也 Tetsuya Igarashi

千葉県松戸市出身。1999年より富士吉田市内で勤務し、織物産業の振興に携わる。2014年より「黒板当番」として活動を開始。普通のチョークを使って描くスタイルで、宇宙、自然、光、水、人物などをモチーフに、富士山駅ビルQ-STAの「ヤマナシハタオリトラベル Mill shop」を拠点に作品制作を続けている。

黒板当番 SNS



instagram



X



環の国にて

Life in the Rings of Saturn

著者/五十嵐哲也 a.k.a 黒板当番
編集・デザイン/土屋誠 (BEEK DESIGN)
発行所/MOKUHON PRESS
体裁/A5判 96ページ
価格/1,650円(税込み)
販売/ロンタン、絹屋商店、Q-STA ミルショップ、YOMU(葦崎市)、MOKUHON PRESS 公式サイト他

MOKUHON PRESS

